

## 経験者採用試験の受験を考えている方へのメッセージ ～経験者の座談会（令和2年11月開催）～

経験者採用試験に合格して各府省に採用された方々に、国家公務員に転職しようと思ったきっかけなどについて語っていただきました。

※ 新型コロナウイルス感染症対策のため、会場は十分な換気をして、参加者の間にはアクリル板を設置した上で、座談会を実施しました。

### <ご協力いただいた皆様>

宮原 薫 氏 金融庁総合政策局総合政策課企画第一係長  
(2019年度経験者採用試験(係長級・事務))

大岩 朝洋氏 総務省関東総合通信局放送部放送課企画監理官  
(2019年度総務省経験者採用試験(係長級・技術))

上野 格嗣氏 厚生労働省保険局国民健康保険課企画法令係長  
(2019年度経験者採用試験(係長級・事務))

佐藤 瑛二氏 観光庁参事官(外客受入担当)付主査  
(2019年度観光庁経験者採用試験(係長級・事務))

(金融庁 宮原氏)

(観光庁 佐藤氏)

(厚生労働省 上野氏)

(総務省 大岩氏)



まずは、国家公務員になろうと思ったきっかけを教えてください。

**（総務省 大岩さん）**

私は今回が二回目の転職でして、最初は新卒で鉄道会社に入り、情報通信関係の仕事をしていました。その際に総務省へ2年間の出向をして、国の仕事に興味を持ちました。出向が終わって鉄道会社に戻った後に、市役所に電気技術職として転職をし、下水道関係の仕事をしました。市役所では、より人々に近いところで仕事ができると感じていたのですが、部署異動が少なさそうだと感じ、ふと立ち返ったときに、やはり情報通信関係の専門だったこともあり、もう一度その仕事をしたい、また、より人の生活に影響を与えられるような仕事がしたいと思って、再度転職にチャレンジすることを決めました。

**（厚生労働省 上野さん）**

私は国家公務員への挑戦は二回目でした。学生時代に一度、国家公務員総合職の試験を受けて、厚生労働省にも官庁訪問に行っていました。そのときは採用にはならず、民間企業の生命保険会社に就職しました。元々、人が生まれた環境によって生活リスクが左右されないように色々な人が安心して暮らせる環境を作りたいと思い、厚生労働省を志望していました。民間企業に入った後もその思いは変わっておらず、民間企業でできるだけ実現しようと思って、生命保険会社の商品開発部で、高齢者のコミュニティづくりや、商品にお金だけではなく、より人の安心安全という要素を取り込めるように、とチャレンジしたのですが、上から「それは行政の仕事ではないか」と言われたことなどもあり、多くの人の生活に影響を与える行政の仕事に再度チャレンジしたいと思って、受験することを決めました。



**（観光庁 佐藤さん）**

私は約10年間、旅行会社の法人営業として、一般企業の組織団体の旅行・研修・視察・インバウンド・オリンピック関係のスポーツ関連事業に携わっていました。そのインバウンドの事業を扱う中で訪日外国人の生の声を聞いた経験から、観光行政の必要性を感じました。Wi-Fi環境が少ないとか、多言語の案内板が少ないなどといった声を聞いて、やはり民間企業だけでは解決することができない課題が多く見つかりました。このような課題を根本的に解決するには、自治体や民間企業その他観光事業者と連携を図って改善周知をしていく必要があると感じ、それを実現するために観光庁で働き

たいと思いました。

#### (金融庁 宮原さん)

前職は銀行で経理を担当しており、日本の会計基準に基づいて会社の決算を回す仕事や財務分析、経営層への報告、監査や会計基準の動向調査などの仕事をしていました。仕事をする中で公認会計士の資格を取得し、会計や監査の仕事にも関心はあったのですが、どうしても経理の仕事だと、会計基準や監査基準などに対してどうコンプライしていかかがメインであり、なかなか能動的に仕事ができませんでした。また、不正の会計事案が出たときに能動的にできることは限られており、会計制度や監査制度など全般の制度を変えるというのは銀行では厳しいと感じ、国家公務員、とりわけ金融庁で働くことで制度改革に携わりたいと考えるようになりました。

経験者採用試験を受験するにあたって、いつからどのような準備をしましたか。

#### (金融庁 宮原さん)



私は昨年7月の合同業務説明会に参加したときに、「そろそろ準備を始めた方が良い」という話を聞いて、慌てて準備を始めました。市販の問題集等を買って勉強したほか、人事院ホームページの過去問や公務員予備校の出題問題の傾向などの情報を見て対策をしました。面接や官庁訪問については、あまり話すのが得意ではなかったため、予備校の対策講座等に参加をしました。大体約3か月で準備をしました。

#### (厚生労働省 上野さん)

私は、経験者採用試験の存在を知ったのが試験の半年前だったので、そこから急遽準備を始めました。筆記試験については、3年前に国家公務員試験を受けていたので、そのテキスト等を活用して勉強しました。面接対策については、3年前に一緒に官庁訪問を回った友人達が実際に官庁に勤めていたので、その友人達にどのような職務内容があり、そこにどのような人材が求められるのか、話を聞くなどして対策しました。

#### (観光庁 佐藤さん)

私は試験の1年くらい前から観光庁に入りたいという思いがあり、その時期から試験について調べるようになりました。ほとんど初めて学習する内容でしたので、早い段階から勉強しなくてはと思って、7～8か月くらい前か

ら勉強を始めました。まずは、試験の概要を把握して、出題ポイントを明確に捉えるということをしました。性格上、自分で決めたスケジュール通りに進まないと気が済まないタイプなので、試験日から逆算をしてスケジュールを立て、市販の参考書を中心に勉強を進めていきました。やはり働きながらの学習は苦しい時期もあったのですが、ほとんど初めての内容だったので、一日一日の知識の蓄積を楽しむというようにポジティブに考えながら、モチベーションを維持していきました。また、早い段階で自己分析や経験論文対策を行ったことで、出題ウエイトの高い教養試験対策に時間を充てられたことが、結果として良かったと思います。

**(総務省 大岩さん)**

私は7月の試験公告があってから対策を始めたので、実際の勉強期間というのは恥ずかしながら結構短いです。市販の問題集で対策していましたが、時間もなかったなので、主に経験論文の掘り下げを重視しました。今までの経験の中で苦労したこと、総務省に入省した後に何をしたいのか、今までの経験から何ができるのかということをよく分析するようにしました。

現在の仕事について教えてください。  
また、前職での経験は、現在の仕事にどのように活かしていますか。

**(金融庁 宮原さん)**

私は、総合政策局総合政策課というところで、庁内の総合調整業務を担当しています。一般的な金融行政とは少し違うかもしれませんが、政策評価や各種会議のロジ等の業務を行っています。主に担当しているのは政策評価です。他省庁でもやっていると思うのですが、金融行政の計画を立て、その実績を評価するという、いわゆるPDCAサイクルを回していくことをしています。また、当庁において8月に金融行政方針を出しておりますので、その年間計画を考えていくというプロセスに関与しています。もう一つ、政策オープンラボというものがありまして、これは自主的に政策課題を考えて提案していくことをしており、その運営に携わっています。同時に、私も前職の会計や監査の知識を活かして、活動に参加もしています。

**(観光庁 佐藤さん)**

私は、観光庁の外客受入室というところで、訪日外国人が快適に街歩きを楽しんでいただくための受入環境を整備する事業に携わっています。具体的には訪日外国人旅行者が多く訪れている地域から、Wi-Fi環境や看板の整備、トイレの洋式化等といった地域の取組に対して、支援をしています。事業を進めていく上で地方運輸局や自治体、観光事業者と連携を図って進め

ていく必要がありますので、そういった意味では前職で観光に携わる方々と調整を行ってきた営業経験が活かしているのではないかと感じます。

**(厚生労働省 上野さん)**

私は今、国民健康保険課という部署で、医療保険制度の運営、企画・立案を全般的に行っています。また、国会、マスコミ対応についても私が統括して対応しています。具体的な案件ですと、マイナンバーカードの保険証化、コロナによる保険料の減額、医療保険制度改革などを検討・対応しています。前職は生命保険会社で商品開発を行っていたので、公的医療保険の知識がある程度あったことは今に活かしていると感じます。

**(総務省 大岩さん)**



私は総務省の関東総合通信局という地方支分部局の放送課というところでFMラジオ局の許認可業務を担当しています。具体的には、新しいラジオ局を開設したいといった相談や既存のラジオ局の設備更新などの許認可を行っています。前職の経験が仕事に直接技術的に活かしているわけではないですが、仕事の進め方、周囲との関わり方という面では、今までの経験が活かしています。また、鉄道会社で電波を扱う仕事をしていたときに、法令を読みながら仕事をしていたので、その経験は今に活かしていると思います。

中途採用者の方は周りにいらっしゃいますか。

**(金融庁 宮原さん)**

周りに経験者採用の方はいませんが、出向者や任期付職員の人など非常に多様な方がいらっしゃいます。プロパーの方だけではなく、色々な人がいるのは金融庁の良い点だと思います。

**(総務省 大岩さん)**

自分の配属先の隣のグループに前年の経験者採用試験の採用者がいます。

**(厚生労働省 上野さん)**

私の課では隣の特任保健指導などを担当している係に保健師さんなど中途採用の方がいます。私の前任者も経験者採用試験で採用された方で、私と同じく保険会社から転職された方でした。

**（観光庁 佐藤さん）**

同じ部署に同期入庁がもう一人いるのと、1年前に採用された方が一人います。また、隣の部署にも一人ずつ中途採用の方がいます。

働く前と後で国家公務員に対するイメージの変化はありましたか。

**（総務省 大岩さん）**

今回の転職ではイメージの変化はありませんでした。ただ、企業からの出向時に遡ってみると、国のため、国民のためにと考えて働いている人が思った以上に多いことがわかりました。また、頭の良い方が多く、1聞いて10話せる人が多いと感じました。それは勉強していないとできないことで、国の制度を作って進めていくために過酷な仕事をしていると感じ、公務員に対する「安泰で楽な仕事」というマイナスイメージは全くなくなりました。

**（金融庁 宮原さん）**

モチベーションが高いからだと思いますが、仕事に対するプロフェッショナルリズムの高い人が多いと感じます。どういう仕事でも、聞かれたことへの即答していくスタンスはすごいなと感じます。また、公務員はくたくたになるまで働いて疲れているというイメージがあったのですが、割とそうでもなく、仕事を効率よく早く終わらせる意識は高いと感じます。

**（厚生労働省 上野さん）**

ホワイトカラーとしての能力が高いと感じます。説明能力については、日々議員レクや幹部への説明、陳情対応等で説明をするのが仕事の半分くらいを占めているので、プレゼンテーション能力が勝手に上がっていくと感じています。文章を書く能力についても、日々国会答弁を書き、メールを30本以上打つので、文章能力が磨かれていきます。また、法令に基づいた考え方をするので、論理的な考え方ができるようになります。説明能力、文章能力、論理的な考え方とホワイトカラーに必要な能力が向上する職場だなと感じます。

**（観光庁 佐藤さん）**

採用前は上下関係がしっかりしていて、固いイメージを少なからず持っていました。実際に働いてみると、特に観光庁は民間企業や自治体からの出向者も多く、今は在宅勤務やテレワークをやりながらですが、積極的にコミュニケーションを取りながら働いています。前職の民間企業に近いような職場環境だと感じています。

## 国家公務員の魅力とは何だと思いますか。

### （厚生労働省 上野さん）

制度の企画・運営に関われるというのは魅力だと思います。ここで自分が事務連絡や通知の解釈を検討したら、多くの人生活を救えるというように、業務と助けたい人が直結しているというのは魅力だと感じます。また、人のためにやっているから頑張れるという使命感を持って働くことができます。

### （観光庁 佐藤さん）

民間企業は利益追求が最大のミッションであり、どうしても短期的な視点になりがちですが、国家公務員はより長期的なスパンでスケールの大きな仕事、政策に携わることができるのは最大の魅力だと思います。

### （金融庁 宮原さん）

一般企業ではできない部分を行政がカバーするという矜持を持てるのは、魅力だと思います。また、何か正しいことを言わなくてはならないときに行政官だからこそ言えるということは魅力だと思います。「民間企業ではなかなか言えないようなことを行政官として言わないといけないときがある」と教えてくれた方がいて印象的でした。

### （総務省 大岩さん）

私は、国家として大きなスケールで、国策として進める制度作りができることが、一番の魅力だと感じます。全体の奉仕者として何ができるのかを考えるのは、民間企業には無い部分だと思います。また、民間企業で商品や設備を作った場合に潤う人は一部かもしれませんが、公務員が与える影響力というのはものすごく大きいので、そこも違いなのではないかと思います。

## 最後に国家公務員に転職を目指す方へのメッセージをお願いします。

### （総務省 大岩さん）

国家公務員は、民間企業ではできないスケールの大きい仕事ができます。今、私が行っているのは許認可ですが、それも民間企業ではできない仕事です。省庁にいと様々な情報が入ってくるところも、技術系にとっては魅力です。民間企業の経験を直接活かせなくても、働き方は活かしていけます。もちろん、飛び込んだ後にも自己研鑽は続けなくてははいけないですが、やりがいのある仕事も多く、国家公務員の仕事はかっこいい仕事だと思います。みなさん安心して飛び込んでほしいです。

**(観光庁 佐藤さん)**

私自身初めての転職で、国家公務員の転職のハードルがどのくらい高いのかイメージが湧きませんでした。働きながらの学習は、学習時間の確保とモチベーションの維持にとっても苦労しましたが、振り返ってみると、そのとき集めた情報や知識が今も業務において十分に生きています。将来こうなりたい、社会をよくしていきたいという強い志があれば、良い職場になると思います。そのような思いがあればチャンスがあると思いますので、ぜひ挑戦をしていただきたいです。



**(金融庁 宮原さん)**

迷ったら一歩を踏み出すことが大事だと思います。国家公務員は民間企業では経験できない仕事もありますし、色々な方の話を聞く機会にも恵まれ、仕事だけではなく、自分の人生を振り返ったときに非常に意義深いものになるのではないかと思います。ぜひチャレンジをしてください。

**(厚生労働省 上野さん)**

昨年、私がこの試験を受験したときは、まだ社会人になって2年半しか経っておらず、経験者と言えるほど経験を積んでいなかったため、採用されるか本当に不安でした。試験の面接では、自分が社会人になって何を経験してきたのか、本当に行政というフィールドでやりたいことがあるのかということの説明し、面接官の方に真摯に話を聞いていただき、納得していただきました。そういう熱い思いがある人ほどぜひ公務員を目指してほしいと思いますので、ぜひチャレンジしてほしいと思います。

～ご協力ありがとうございました～